1月31日メモ

野村総合研究所

**社員紹介②瀧野さん**

NRIデジタル　デジタルソリューション部所属

文学部卒

アプリケーションエンジニア

最終面接で自分らしい話が出来、面接官もそれに納得しているようで、入社した

担当業界：旅行会社ECサイトの維持保守、問い合わせ対応、エンハンス（システム向上「新しい商品を買えるようにしよう！」など）

ビジネスとシステムの翻訳家

3，4年目でリーダー

6年目でPM

7年目で産休・育休

プロジェクト紹介：GoToトラベルキャンペーン対応

コロナによる大幅な売り上げの減少

約2か月で対応せねばならなかった

スケジュール例

週1出社、他テレワーク、9時から17時ごろまで

NRIで必要なスキル：顧客のビジネスを理解すること、ITの知識

ZOOM会議でもコミュニケーションをとる目力！

キーワード：ピンチはチャンス、上司の機嫌がいいことがいい仕事の条件（後輩がそれを見て育つ）、神は細部に宿る、いい仕事してよく休む

メッセージ～自分の長所を生かして安心して働ける職場をみつけて！就職活動は自分と向き合い、向いていることを見つけるチャンス！自分を表現できる練習を存分できるのは就活だけ！～

**採用について**

キャリアフィールド選択して応募

ESとSPI受験をし、書類選考

目標を設定しやり遂げた経験を書いたらいいよ！

第1受付：2/14～3/3

**質疑応答**

好きなところ、嫌いなところ

強みは、社員のこだわりの強さ

嫌いなところ、こだわりすぎるところ、うっとうしがられる（笑）

GOOD：少し相談するとすぐ対応してくれる、社員の幅が広い

BAD：人がたくさんいるので、埋もれてしまう

選考時に意識したこと

どれだけNRIのことを調べたかをアピールした

自分のことより、NRIについてとても調べたことを伝えた

瀧野さんは、自分らしさをたくさん伝えた

それでも落ちた会社は仕方ないと思っていた

福利厚生の強み

5連休を年間2回使える

NRIが他より優れている点

やはりコンサルもITビジネスもすること、すべての工程を責任もってやれる

入社前と後のギャップ

理系多いと思っていたが、文理はほぼ半々、研修が手厚いので理系がうかうかできない

瀧野さん：SEはずっとパソコンに向き合うものだと思っていたが、SEでも業界の課題をしっかり考えたり、専門の資格を取ったりしている

1つの業界に関わっていくのか？複数なのか？

瀧野さんは1つを極めているが、いろんな経験を積みたい人は複数の業界を経験できる。

他業界なら、松下さんは見てない

競合他社と比較して、人が良かったと思う（インターン）

人と仕事内容をしっかり見て入ったほうがいい。

NRIは、金融ではSI部門で頭抜けていると思っていた。

実際どれくらい激務？

月に45時間残業している（繁忙期）

ITコンサルファームとの違い

構築、保守の後も会社とつながり続けるのが強み

コンソリューション

Q. 当社の事業内容を踏まえて、このキャリアフィールドで実現したいことを具体的に教えてください。その実現のために活かせるあなたの強みと、今後どのようなスキルを身に付けていく必要があるかも合わせて教えてください。

アプリケーションエンジニアと選択

1. 私は将来、アプリの開発・運用・保守を通して大規模企業の経営課題を解決していくことで、今後の大きな社会課題に対して迅速な対応が取れるような、技術力があり時流を読めるエンジニアになりたい。大学時代の競技ダンス部で、入部当初の目標である全国大会出場を果たし、準決勝に勝ち進んだ。ダンスのパートナーとは試合が終わる毎に目標を確認し合い、達成するために何が必要か話し合うことで課題発見の力を培った。この強みは貴社のコンソリューションに大いに活かせると考える。目標実現のために身に付けるべきスキルは、優れた自己研鑽能力である。IT業界は諸行無常であるため、IT人材も時代に沿って技術や経営に関する知識を更新していく必要がある。貴社のDNAである野村電子計算センターでは、初めてマルチベンダー方式を採用し、最適な組み合わせでシステムを開発した。これは、顧客企業の業界知識の更新、今よりもっと良いアプローチはないかと考え続ける貴社だからこそできたことだと思う。多くの企業の経営合理化のために挑戦を厭わない貴社で活躍することは、自身の自己研鑽能力を向上させる一番の近道である。

Q. 当社の事業内容を踏まえて、このキャリアフィールドで実現したいことを具体的に教えてください。その実現のために活かせるあなたの強みと、今後どのようなスキルを身に付けていく必要があるかも合わせて教えてください。

経営コンサルタントと選択

1. 私は将来、多くの顧客企業の経営課題の解決に寄与することで、今後の大きな社会課題に対して迅速な対応が取れるような、時流を読めるコンサルタントになりたい。現在2つのバイトを掛け持ちしていて、どちらもバイトリーダーとしてお客様に喜んでもらえる良いサービスができるように、バイトへの指示と運営業務をしている。この経験から、私は仕事におけるコミュニケーション能力に長けている。この強みは、顧客企業が何に悩み、どのようなシステムを導入したいのかを的確に把握することが求められる経営コンサルタントに活かせると考える。目標実現のために身に付けるべきスキルは、粘り強くやり抜く力である。お客様の本当のニーズを捉えることは難しく、何回対応しても見つけられない場合もあると思う。この場合、価値を創造し提供するまで粘り強く顧客企業の課題発見に向き合っていく必要がある。一方で、貴社はコンサルティング、ソリューション、セキュリティを通じて社会課題に取り組み、常に新たな社会価値を創造してきた。このような貴社のやり抜く環境の中で、未来を自ら作り出していける経営コンサルタントとして活躍したい。

参考「NRI　DNA　STOPY」から抜粋

**野村電子計算センター（NCC、後に野村コンピュータシステムに社名変更）**

**また、NCCが先鞭をつけた「マルチベンダー方式」では、しっかりとした調査で得られた情報に基づき、メーカーやハードウエアの機種にとらわれず、最適な組み合わせでシステムを作りました。ここにも、顧客課題の解決に真摯に取り組む姿勢が貫かれています。**

**設立理念は、「野村證券における高度な情報システム開発から得た様々なノウハウを、より多くの企業の経営合理化などに役立てること」とされ、社会への奉仕と新たな価値を生み出す姿勢を表しています。**

**1970年代初頭からは、共同利用型の証券オンラインサービス「STAR」を提供しており、これは「クラウド」という言葉さえなかった時代に、現在の社会で潮流となっている「所有から利用へ」という動きを先取ってきたことの証左です。**

**「広い視野を持ち、多様な課題の解決に取り組む」という姿勢があります。設立趣意書に「国際経済などの諸問題とも取り組む」とある通り、その眼差しは国外まで見据えていました。旧NRIを含めた世界主要国からのシンクタンク代表が集う「TOKYOフォーラム」が1987年に始まり、世界的頭脳や内外の企業経営者も参加。地球経済が直⾯する課題や、経済摩擦を乗り越える企業経営のあり⽅などが討議されました。後にNRIは、世界主要国のシンクタンクと共に「T5（Think tank 5）」を結成。長く研究・提言活動を行うことになります。そして現在のNRIは、「産業資本主義」に代わる「デジタル資本主義」の進展をにらみ、「NRI未来創発フォーラム」や月間論文誌『知的資産創造』などの各種媒体で積極的に発信を行なっています。SDGsやコロナ禍による世界的な価値観の変化など、社会的課題に能動的に取り組む姿勢は、設立当時から受け継がれています。**

**日本有数のシステムインテグレーターに成長したNCCは、お客さまのため必要な技術は自分たちで開発する姿勢で臨んできました。  
お客さまの要望を実現するため、お客さまの本当のニーズを捉え、場合によってはそれを先取りして、お客さまのために真に使い勝手のよいシステムをつくる。そのために必要な技術は自分たちで開発しました。設立当初は、プログラム言語を自ら設計し開発するほどでした。**

**旧NRIとNCCが合併し、新生NRI（野村総合研究所）が誕生したのは1988年のことでした。合併を推進した、野村證券の 田淵節也会長（当時）は、今後の情報サービス企業の姿について、「来るべき高度情報化社会を見通したとき、システム機能を持たないシンクタンクはありえないし、シンクタンク機能を持たないシステム企業もありえない。双方の機能を一体的に持った企業でなければ、情報サービスの分野で生き残れない」と考え、合併はそれを先取りするための布石だと述べました。**

**「未来を予測するだけではなく、未来を自ら作り出してこそ価値がある」とNRIは考えます。「未来創発」のもとで、社会課題の解決に取り組み、お客さまとともに持続可能な未来社会づくりに挑み続けています。**

**「新たな価値創造を通じた活⼒ある未来社会の共創」「社会資源の有効活⽤を通じた最適社会の共創」「社会インフラの⾼度化を通じた安全安⼼社会の共創」これら３つの価値共創により、豊かで快適な社会、あらゆる人が暮らしやすい社会、そして安全安心な社会を目指し、さまざまな変革や事業に取り組んでいます。**

**NRIグループは、創業時から受け継がれている精神である「本業を通じて社会課題に取り組み、新たな社会価値を創造する」ことを通し、世界をダイナミックに変革し続けていきます。  
そして、「デジタル社会資本」――デジタル技術で新たな価値を生み出し、社会や産業を支える共通のインフラやサービス――を創出し、豊かで活力ある持続可能な社会に寄与します。**

「NRI　AMBITION」より

**組織の壁を越えた「人」の交流・協働が、シナジー（相乗効果）を生み出す活動の一例として、日本のデジタル化を促進するマイナンバー（社会保障・税番号制度）の普及に向けた、民間企業としての各種の取り組みが挙げられます。具体的には、マイナンバーの重要情報を安全に保管・管理する「e-BANGO」やネット社会における個人認証を幅広く実現する「e-NINSHO」等のソリューション開発、マイナポイント事業における予約・申込端末設置の委託事業支援、などです。これらは、コンサルティング、ソリューション、セキュリティまでをカバーするNRIグループならではの活動です。**

**野村證券をはじめ日本国内の証券会社の75社以上で利用されている、総合証券バックオフィスシステム「THE STAR」。個人投資家との対面（店頭）ないしインターネットでの取引、機関投資家など大口顧客との取引や証券仲介業など、多様な取引形態に対応し、証券会社が迅速・的確に行う必要があるバックオフィス業務を全面的にサポートするシステム**

**模範とすべきシステムが日本にない中、チームは設計・開発のあらゆる面で挑戦と変革をおこないながら、1970年末にシステム開発を成し遂げました。  
この過程で獲得した先端技術やノウハウを活用して、4年後の1974年には、大手程のシステム投資余力を持たない中堅証券各社等に向けて、SaaS（Software as a Service）の先駆けともいえる共同利用型のシステム「THE STAR」を完成させ、サービスの提供を始めました。**

**運用と保守を単なる業務と思っていない。「エンハンス」だと考える。お客様のビジネスを成功に導くために伴奏していくもの、社会がよりよい未来へ進むための力となるものと捉えている。**